

本物の素晴らしさに触れる

鎌倉能舞台 能楽公演

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業」

令和3年10月19日（火）



鎌倉能舞台による能楽公演が、2年生を対象に公演されました。

初めに、能の話を聞きました。
「室町時代に大成された演劇。」
「江戸時代に武家により式楽として教科書のように、当時のまま正確に伝えられている。」
「動きやせりふは無駄のない最小限にして、演技には厳しい稽古が必要です。」

丁寧な説明を受けて、我が国の伝統芸能を学びました。





狂言「柿山伏（かきやまぶし）」

表情豊かに演者が演じている様子が、躍動感があり印象的でした。柿の木があるがのごとく振舞ったり、柿を美味しそう頬張ったり、盗み食いをごまかすために動物の物まねをしたりする妙技に引き込まれました。

小学国語でも、教科書で学んだお話です。独特の抑揚がありましたが、話の内容を知っているので、狂言の面白さがよく伝わりました。



能「小鍛冶（こかじ）」

「凄かった。」の一言。狐の面を被った演者が登場するシーンで、「地謡」の迫力ある演奏に引き込まれました。狐の野生を思わせる静と動の動きが大変印象的でした。



スクリーンにせりふや解説が映し出され、話の内容がよく伝わりました。

また、「型」による独特の演技や「地謡」の演奏と関わらせることによって、素人にも能の表現を味わうことができました。

体験 狂言ワークショップ

基本的な構えと「柿山伏」が柿を食うシーンを真似して、狂言のイントネーション「おしゃむしゃむしゃ」を演じました。

大きな声で楽しんでいました。



最後にお礼を述べた生徒は「少ない動作の中に、いろいろな表現がされていてすごいと思いました。」と、長年継承され、鍛錬されてきた能楽を鑑賞した感想を述べました。

鎌倉能舞台のみなさま、素晴らしい公演をありがとうございました。